

年月日 平日＝2010年09月09日（木・曇り時々晴）  
休日＝2010年09月26日（日・晴）

回数 2009期＝第16回巡礼 平日参加者＝15名  
2010期＝第5回巡礼 休日参加者＝25名＋2名

巡礼寺・順

●六十番札所 善福寺（ぜんぷくじ）

\* 本尊・大日如来 \* 山号・龍燈山 \* 真言宗（般  
若院・末寺） 草創・草創・不明

\* 度重なる災害で記録を失い不明 寛永五年（1628）了快上人が中興の祖時代が下がって天保年間（1830～1844）心蓮上人に依り、本堂・庫裏が再建。本尊宮殿の登り龍等の彫刻は、松崎町江奈の名工・石田半兵衛の作。

\* 外に 伊豆七福神巡り五番札所福祿寿が祭られている。伊豆横道三十一番札所。

\* このお寺には安政二年（1855）九月八日江戸幕府の軍艦昌平丸が荒海を避けて妻良へ入港、勝海舟ら11人が上陸海上の平穩を待つて長崎へ向かって出航した等の記録が残されている。

●七十番札所 金泉寺（こんせんじ）

\* 本尊・薬師如来 \* 山号・医王山 \* 浄土宗（西林寺・末寺） 草創・草創・1644（正保元年）

\* 無住寺院の為 同地 与工門商店で納経所他管理

\* 本堂に阿弥陀如来像 来迎図 掲額

\* 本堂に高さ（45）直径（40）小型の釣鐘 所蔵

●六十九番札所 常石時（じょうせきじ）

\* 本尊・薬師如来 \* 脇土 日光菩薩 月光菩薩 十二神将

\* 山号・塔峰山 \* 曹洞宗（慈雲寺・末寺）

\* 草創・慶長年中期（1596～1614）慈雲寺四世僧、全鉄により開祖。

\* 由来・蛇石（じゃせき）この土地の名 蛇石の起源となった「蛇石」がこの近くの二級河川、青野川基点から下流30mの向岸（左岸）に大きくて長い頭と胴と頭を出している。いかにも、蛇の頭部のように見る者に自然の力を見せつけている。大蛇は頭から尾まで2400mと言われている。

- \* 本尊、薬師如来像と供に、日光菩薩像、月光菩薩像、十二神将が祀られている。

●七十一番札所 普照寺（ふしょうじ）

- \* 本尊・正観世音菩薩 \* 山号・翁生山 \* 真言宗（高野山、高室院・末寺）

- \* 草創・草創・793(延暦十二年) 793) 地元漁師の網にかかった 観音様を祭った。

- \* 由来・本尊は、行基上人の作で県の重要文化財。他に泰庵書の大般若経（六百巻）。大中臣友綱寄進の鐘、鰐口がある。これは県の重要文化財。

鰐口＝社殿。仏堂正面の軒下につるす金属製の音響具 扁円・中空で下方に横長い口がある。参詣者は布で編んだ綱を振り動かして打ち鳴らす。金鼓（こんく）。

- \*注目・伊豆蜂起に記載されている伝説などによると延暦十二年（793）正月海からあがった良材木で行基上人が観音像を造ったがこの伊浜を領していた者の下僕の一が海に捨てて逃げた。そののち帰ってきた一角が、この捨てた観音像と対面・改心し、信仰厚く勤めていると夢枕に観音様が表れ、粟の種を授け蛇野（あざの）に蒔くようお告げがあった。お告げに従い粟を作り、豊かになった。

—閑話休題— 話には読きがあった。近年の事 伊浜に大家（おおや）とゆう屋号で昔名主を務めていた家で粟が見つかり、県立植物試験所発芽に成功した。毎年栽培を重ねて種子を保存している。このことは平成六年秋、テレビでも放送。いまでは、この粟を使い土産物も発売されている

- \* 高台にあった真言宗の草庵を、1460-65(寛正年間)僧・盛賢上人により現在地に再興する。

距離 約2 Km+約2 Km+約5 Km+約7 Km+約1 Km=約17 Km

タイム 下土狩5：20—修善寺—法泉寺発8：00—善福寺8：35～55—金泉寺8：55～9：20—常石寺11：15～12：30—普照寺14：20～40—県道15：20—温泉—下土狩

温泉 松崎町「三聖苑」500—

参考HP ガイドブック・伊豆八十八霊場

前回、最終の法泉寺から巡礼。平日は曇り、休日は快晴だった。坂道を上り、妻良へのトンネルを抜けると、今度は急な下りが一気に海に続く。どんどん下降して行くと左手に「三島宮」があった。鳥居の狛犬が柔らかい岩石らしく、海岸の岩壁のように筋状に風化しているのには驚いた。余程、風も強いのか？

その先が善福寺の入り口。寺のお母さんが我々を迎えてくれた。このお寺は高野山・真言宗。伊豆八十八も案外、真言宗は少ない。歴史もあり、1855年には、勝海舟が荒天を避け寄ったこと、また、本尊宮殿の登り龍・降り龍等の彫刻は、名工・石田半兵衛の作と言われる。ご本尊は60年に一回の御開帳でなかなか拝めないそうです。



善福寺



大ばあさま

大婆さまとお嫁さんがいて、お茶とお菓子の接待を受けた。この寺は歴史が古く、安政二年（1855年）、勝海舟が荒天を避けて宿泊した。また、文化4年（1807年）に飯作庄左エ門が四国八十八巡礼時貰った御朱印が飾ってあった。今から200年前に本当に回ったのだろうか。下田のSさんの話では、この辺りには「飯作」の苗字は多いとのこと。

本堂右には、四国八十八札所の「御砂踏み」がある。これは以前、下田の寺で見たものと同じで、四国に行けない方が、これを踏み回れば行ったと同じ御利益があるというもの。

ここではもう一つ楽しみがあった。寺の入り口のお婆さんが、安くて美味しい「目刺し」を作っていた。しかし、今年は猛暑で全く魚が獲れず、目刺しは作れなかったとのこと。猛暑の影響はこんなところにも出ていた。

善福寺出口ー妻良公会堂から緩やかな登りを東条トンネルー田面トンネルー白崎トンネルー。やがて、子浦をすぎたころ、進行左手に妻良漁港。子浦の海水浴場を経て、狭い道幅でラストの上り勾配の道を上りつめ、一番高台の階段の上に無住の閑静

な小社然とした金泉寺がひっそりと佇んでいる。

寺の外側斜面右は、檀家のお墓が5～60基あり、目立ったのは石垣家のお墓でした。寺から子浦の海の眺めはのどかで平穏を絵にしたよう。

寺・本堂は締め切っている様子で今日も檀家役員、佐野様の奥様が坂道をご苦労して、カギを持って待ち構えてくださりありがとうございました。なお、ご朱印帳は佐野様のお宅で直接お世話頂いた。



金泉寺



佐野さまの奥様

子浦の海水浴場駐車場広場から、しばらく県道119号線を、清流五十鈴川を右手下に見、20m位高架の国道136号線の下を抜けかなりの上りを歩く。

2～30分歩き進め上り坂。途中にあった道標、右上小野へ7km直進、市の瀬4kmの登り坂も難所越の目安が着くころ若干の余裕もうまれ道すがら自然な朱色、芙蓉の花や朝顔の花、尾花を見て、こころなごませさらにほたるの里の看板もあちらこちらにあり手付かずの自然(?)に思わず、ありがとうと小さな胸をなごませた。

登ってきた右下奥、すこし歩けば後方に妻良・子浦の海岸のコントラストが、陽光に映え目を見張る景色をみせてもらいました。一方、ここから遅れがちの人が出る

も、一行は遍路の厳しき楽しきに酔いしれる様に夢中で歩みを伸ばす。

昔は往来が多かったのだろうか、このの峠には立派な大きなお地蔵様が2体佇んでいた。この下すぐに人家を3、4軒固まっているところでめずらしい、小麦を天日で干していた農家があり嬉しくなりました。右手に別荘地があり、横浜から来たご婦人が、犬と遊んでいた。

市の瀬上谷戸橋で後続をお待ちいたしたのち県道119号線と県道121南伊豆松崎線に合流。左折して道なりに歩きを進め平戸口バス停で右折蛇石道路に入る。



常石寺



鈴木住職

15分位で常石寺の麓が見えてくる。バス停蛇石口の手前を左折して小川沿いに3～4分で常石寺に着く。和尚さんが住まいしておられ曹洞宗（永平寺で修行してお坊さんになられたとか）鈴木正之氏と称し昭和7年生まれ。申年、78歳だそうです。

平日班は鈴木住職とお勤めを済ませた。また、両班ともここで昼食・休憩を行いました。

お寺を去る時、住職が講師にモナカのお土産を下さりました。お寺でお土産をいただくなんて初めてのことです。（休日巡礼もいただいた）また、梵鐘も「カン・カン・カン」と鳴らし、旅の安全を祈ってくれました。この三打の意味は、「現在・過去・未来」の意だそうです。

鈴木上人さんの案内で二級河川起点青野川まで少し上り（2～3分）蛇石バス停下方30mに蛇の大きな頭と覚しき大石（蛇石）が見られる。

蛇石を発ち平戸口バス停迄戻り、そこから再び峠を越えて海に向かう。休日班は、峠を過ぎたところで大きな栗の木の栗の実を拾った。

道が下りに入り30分ほどで、一町田を過ぎ伊浜へ向かう。やがて眼下に波勝崎の山容と伊浜の海が見え漁船6艘を数えるもひたすら穏やかなたたずまいに見受けられた。伊浜のバス停を過ぎたあたりから若干登坂し約7～8分で第71番札所普照寺に着く。

普照寺さんはかなりの高台に位置し、海岸ほかの景色は一日中見ている飽きない

と感じた。(休日巡礼は、ここでも住職にお話をいただいた。793年、網にかかった観音像を上げた漁師の末えい18名は、今でも正月三が日に集まり、お祝いをしているとのことです)

普照寺から県道121号を約300m程上り坂し今日の巡礼はここまでとしました。

(注・この原稿は、2008年10月度、佐藤さんの記録を参考にしました)



アロエ販売のオジさん



普照寺住職



普照寺・平日班

常石寺・休日班

